

政策評価書（要旨） （事後の事業評価）

事業名	大型機用エンジンの研究	担当部局	経理装備局技術計画官
政策体系	4-1 研究・開発	実施時期	平成20年1月～3月

事業の内容 大型機に搭載し、高空高速巡航から低空低速飛行までの広い領域において優れた燃費、耐環境性等を備えるエンジンとして、推力6トン（13,000ポンド）級の高バイパス比ターボファンエンジンについて研究を行い、実験用航空機にて飛行可能なレベルまでの機能・性能の実証を行う。	13	14	15	16	17	18	19	20	完了年度
	← 研究 試作 →				試験				平成19年度
		← 次期固定翼哨戒機の開発 →							経費総額
									195億円

評価の内容

事業の目的 将来の大型機の高性能化を図るため、高空高速巡航から低空低速飛行までの広い領域における燃費、耐環境性等に優れる大型機用エンジンに関する技術を取得する。

②達成時期 平成13年度から試作に着手し、平成19年度に研究を完了した。

今後の対応 本大型機用エンジンを搭載した次期固定翼哨戒機の開発を引き続き実施する。

達成状況 ①達成効果 本事業においては、試作した大型機用エンジンについて、PFRTを完了させ、海面上静止状態における推力及び燃料消費率について、目標性能を達成したことにより、以下のような達成効果が得られた。 ア 現在開発中の次期固定翼哨戒機（XP-1）用として、高空高速巡航から低空低速飛行までの広い領域における燃費、耐環境性等に優れるエンジンを試作することができた。 イ 特に、固定翼哨戒機の運用による周辺への影響を考慮し、高バイパス比など最新の騒音低減技術を適用し、民間機並みの騒音低減を図ったエンジンを試作することができた。 ウ これまで、わが国においては、小型のターボファンエンジンを開発・生産した実績があるが、本事業で得られた成果により、大型機に搭載可能な高バイパス比ターボファンエンジンに関する技術を向上させ、航空エンジンの技術基盤の育成に貢献した。
③教訓等事項 ア 本事業に先立って、推力5トン級のアフターバーナー付き低バイパス比ターボファンエンジン（実証エンジン）の研究を行っており、技術の共通化により、リスク低減の効果があつた。 イ 本事業においては、ATFやFTBを活用し、より実飛行に近い状態での検証を行っており、航空エンジンの開発では欠かせないそのような試験のノウハウを向上させることができた。

その他の参考情報 平成19年度 事前評価「次期固定翼哨戒機（P-X）」
